

# 論本宗之宗義並相承

辻 能 學

A、宗口 義口

謹で吾が妙法蓮華經宗の宗義を按ずるに、本宗は法華經本門壽量文底所顯の理即ち上行所傳の妙法五字を以て宗旨とし本佛の遺誡を遵守し諸宗謗法を呵責して此の妙宗を弘通するを以て宗義と爲す也而して其所以は久遠實成之恩教主釋迦法皇靈山會上多寶塔中に於て本門壽量三大秘法の南無妙法蓮華經をば一會の大衆中にて別して本化の大菩薩に付囑し懇懃に末法の弘通を勅し給ふ本化の上首上行菩薩佛勅を奉じて末法の肇の興教の運に當て迹を本朝日本國に垂れ自ら日蓮と名乗て寶卅二歲後深草天皇の御宇建長五年四月廿八日を以て塔中別付の妙宗を開闢し而して此妙宗を普く一天四海に弘冥するに四大格言を以てし盛に諸宗人師の謗法に對し一大獅子吼を與へ給へり、抑も其一大梵音とは何哉云く念佛は無間墮獄の業禪宗は天魔

の所爲眞言は亡國之惡法律宗は國賦の妄說乃至諸宗無得墮地獄之根源法華猶一成佛の教也是全く日蓮が私言に非ずして則ち釋迦金口の明説也云々と玆に知ぬ本宗は此の四大格言に則り専心諸宗の謗法を嚴誡叱正以て本門壽量の骨髓たる妙法を弘宣し現當安穩を期するを以て宗義とは爲す也。

B、相口 承口

次に本宗の相承を辯せば内外の兩相承あり、  
(一)外用相承者 釋尊―天台―傳教―日蓮と次第相承する是なり則ち傳教大師秀句の下に云く  
明に知ぬ天台所釋の法華の宗は釋迦世尊所立の宗なり  
と又云く

天台大師は釋迦に信順して法華宗を助けて震且に數揚し叡山の一家は天台に相承して法華宗に助けて日本に弘通す、己上  
釋尊所立の法華宗、三國傳來相承の旨趣文に依て分明也然して我祖此相承を紹繼して云く、

日蓮ハ恐ラクハ相ニ承シ二師ニ助ニテ法華宗ヲ流通ニ末  
法ニニ加ヘテ一ヲ號ニツク三國四師ト南無妙法蓮華經  
南無妙法蓮華經(顯佛未來記 縮遺文九七八)

と是れ即ち本宗の相承に於て法華屬累總付三國  
四師の外用相承なり。

(二)内証相者

内証直授相承とも云ふかり、前述の如く聖祖は  
本地上行として二千有餘の當初靈山會上多寶塔中  
に於て教主釋尊より妙法五字を直授相承し給是れ  
なり今や之が經釋を示さば 法華經寶塔品に云く

釋迦牟尼佛乃至以テ大音聲ヲ普ク告ニク四衆ニ誰レモ

能ク於ニ此娑婆國土ニ廣ク說カシ妙法華經ヲ今正ク是レ  
時ナリ如來不レシテ久ク當レ入ニ涅槃ニ佛欲下ニテ此妙法華  
經ヲ付屬シテ有レシメント在ルヤ(終リノ稿文ノ前ノ所參照)

と説示し給ひ 天台大師文句八に此經文を釋す  
るに

二意を以てし給へり則ち遠令有在と近令有在と  
なり

近令とは近くは現前在座の文珠藥王等の二万八

万の迹化の菩薩に付屬せんと欲するを云ひ、遠令  
とは遠くは上行等の下方本化の大菩薩に付屬せん  
と欲するを云ふなり、但し近令は附文にして遠令  
は元意なり、謂く經の文相に附て見る時は現座迹  
化の菩薩に告勅し給ふ様あれども釋尊の元意は下  
方本化の居士に告勅し給ふに至り故に天台は云く

玄を明して付屬す聲下方に徹し本弟子を召し  
て壽量を論ず(文句八)

と云ひ妙樂復た此の文を受けて云く、

明玄等と言つは畧して經題を擧るに玄に一部  
を收む故に佛欲以此妙法等と云ふ(疏記八)

と判じ給へるあり。當知付屬有在の告勅は正く  
是れ本化の弟子上行等の菩薩を召し出し唯本一部  
具足の題目を付屬し滅後末法に之を弘宣せしめ給  
はんが爲めある事台溪兩祖の判釋明々たり故に此  
告勅に應じて二萬の菩薩五百の羅漢八千の聲聞及  
び他方世界より來集せる過八恒沙の菩薩衆各自誓  
願を致し以て此土の弘經を懇望せられしかども釋  
尊却つて之を避け給ひて

止子善男子不須汝等護持此經

とて迹化他方の弘經を許し給はず而して本化の弟子を召して

我娑婆世界自有六万恒沙菩薩摩訶薩乃至是諸人等能於我滅後護持讀誦廣說此經

との給へば此時大地震裂して上行無邊行淨行安立行等の四菩薩上首として無量千萬億の菩薩各六万恒沙の眷屬を將て同時に涌出し給へり（涌出品取意）佛時に如來壽量品を説て發迹顯本し然る後十大神力を示現し付屬の儀式を調へ一經の總要を束て四句に結び別して上行等の本化の大神に付屬し玉へり、

神力品に玉く

爾時佛告諸上行等菩薩大衆以要言曰  
之如來一切所有之法如來一切自在神力如來一切秘要之藏如來一切甚深之事皆於此

經宣示顯脫

と天台文句ノ十に此經文を釋して云く

稱時佛告上行より下は是れ第三に結要付屬なり結要に四句あり一切法とは此れ一切皆妙の名ある事を結するなり一切力とは此れ妙の用を結するなり一切秘藏とは此れ妙の體を結するなり一切甚深とは此れ妙の宗を結するなり皆於此經宣示顯脫とは總じて一經は唯四而已ある事を結す其の樞柄を撮て之を授與す已上

妙樂疏記十に云く

品内には此の經を屬累せんが爲の故に乃ち如來の四法を以て上行等に屬累すと云已上

釋尊一經の要を名體宗用の四要法に結て上行等の本化の菩薩に付屬し給へること經釋に分明なり故に知ぬ此の神力品結要の文より遡りて寶塔品を見れば直に如來の付屬を受けて末法に應現し壽量妙法を弘通し給ふ導師は上行菩薩の再誕なる事經釋の文義顯然たり則ち本門内証神力別付眞實の法脈相承とは是あり。

以上に於て本宗の宗義並相承を畧述したるも尙ほ本宗相承に關する圖解を左に掲示し以て讀者諸

賢師の解了に便せんとす。

一、外相承圖解左の如し。(三圖四師)

天竺釋迦牟尼佛(等外總付 屬累品)……本化、迹化、他方等總付

支那天台大師(道悟 場)……縮遺文九二四、二〇七二、

日本傳教大師(入唐 藏)……全 一〇七〇

日本日蓮聖人(依經 開)……全 八〇二、九二三、

二、内証相承の圖解を示さば

本地塔中之釋迦牟尼佛(塔中神力別付虛空會上

止迹召本)……縮九四三

下方空中之上行菩薩(塔中面奉 本法相承)……遺文一四五〇、九四八

本化日蓮大聖人(開顯妙土 本法傳弘)……縮遺文二〇〇三下

三、両相承に就いての注意條項左の如し。

一 外相承所立の釋尊與内証相承所立之釋尊之分別。

二、外相承所立は本宗正に非ず是れ一應準備として設立す故は當家を以て中心とせる所談也。

三、外相承は天台總付を代表し内相承は當家別付を意味するものなる事を確知す可き也。

### 本迹一致勝劣を論ずる所以

荒木經明

本迹の一致勝劣を論ずるは能判の一途より勝劣を立て所判の理より一致を顯す者とす

抑も吾祖の盛んに本迹勝劣を論じ給ふは爾前迹門の人々をして迹門の妙法を知りて本門の妙法を知らざる者の爲めに特に本門超勝なる妙法の存在する事を知らしめんが爲めちり譬へば地の徳を知りて天の徳を知らざる者の爲めに天の貴きを示し母を知りて父を解せざる者に父の貴きを示すが如きなり然るに超勝なる本門の妙法の顯されて還て迹門の妙法を捨つるは天の貴きを知りて地を卑み父の尊貴を解して後母を捨つるが如きに至りては豈に邪謬ならず耶豈に不孝の者ならず耶故に吾祖